

木造住宅・建築物等の整備推進に関する調査・普及・技術基盤強化 成果報告書

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する技術基盤強化を行う事業
事業者情報	事業者名：一般社団法人 工務店サポートセンター 事業担当者名： 坂口 岳 連絡先：
補助事業の区分	木造住宅・建築物等の整備推進に関する ① 調査を行う事業                      ②普及を行う事業                      ③技術基盤強化を行う事業 以上の①から③の中から該当するものを選択し、○をつけて下さい。
<p>1. 事業の概要</p> <p>木造軸組構法のプレカット率の上昇による大工技術者の技術の衰退が危惧される中、長期優良住宅における従来の手刻みによる仕口・継手を使った住宅が著しく遅れている。</p> <p>しかし、工務店の大工技術の継承と消費者の要望への対応に向けて、この分野での長期優良住宅の対応への取り組みが必要と考えている。</p> <p>また、環境を考慮した住宅の長寿命化に向けて環境・維持管理の両面から観た住宅の提案と消費者の立場に立ったお手入れの必要性を考え以下の事業を計画した。</p> <p>① 伝統的な軸組構法を基にした、新たな法規準や制度に対応した長期優良住宅基準への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な軸組構法を基に長期優良住宅基準としての準耐力壁基準の対応試験・大臣認定の取得</li> <li>・ 上記、試験・認定を取るにあたっての基準となる仕様の策定</li> <li>・ 上記仕様の長期優良ちきゆう住宅への取り込み：改良型軸組工法の確立</li> <li>・ 改良型軸組構法のマニュアルの作成と会員に向けた説明会・広報活動の実施</li> </ul> <p>② 環境型長期優良住宅と環境提案の見える化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部委員会等への参加による情報の整理とちきゆう住宅との整合</li> <li>・ IBEC や建研との連携による工務店による消費者の立場に立った表示方法の開発</li> <li>・ 工務店が消費者に環境型住宅を説明する際に、分かりやすい資料の提示が出来るツールの開発</li> </ul> <p>③ 上記取り組みの実施に向けた改良型軸組委員会・環境委員会の設立と次代を担う工務店経営の研究と新たな技術への取り組みの検討を行う次世代委員会の継続・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各委員会における有識者を交えた検討・仕様策定・実証</li> <li>・ 委員会レポートを発行して、会員全員での情報の共有を図る（2か月に1度を想定）</li> </ul>	

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する技術基盤強化を行う事業
-------	-------------------------------

## 2. 事業で得られた成果

### 【伝統的な軸組構法を基にした、新たな法規準や制度に対応した長期優良住宅基準への対応】

前年度取得した「プレカット型型式認定：JBN・長期ちきゆう住宅国産材モデル型式認定」・長期優良住宅に使用可能な建材をまとめた「建材マニュアル（構造編）（省エネ編）をベースに委員会を設け改良軸組構法の型式認定の取得を行った。取得した項目は「構造等級 2 の確保」「温熱等級 4 の確保」「維持管理等級 3 の確保」「劣化等級 3 の確保」となる。

今回の型式認定では、設計仕様だけではなく施工技術の確保も必須となるため使用に関しては、従来の設計仕様の講習会への参加に加え、施工技術の講習会（施工可能な技術を保有する事）も活用している。

### 【環境型長期優良住宅と環境提案の見える化の推進】

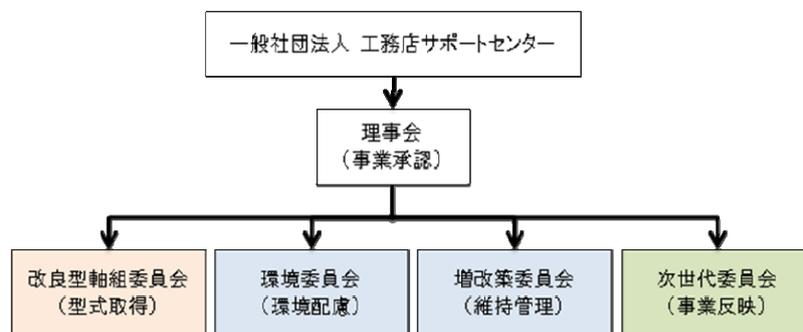
環境に配慮した住宅を提案するにあたり「住宅を建てる」と「住宅の長寿命化を図る」ことの両面に焦点を当てそれぞれに委員会を設置し「見える化」の検討を行った。

結果として「住宅を建てる」提案に関しては、環境のみに焦点を当てるのではなく「価格」「仕様：構造・環境・仕上」の住宅全般に関する見える化を行う必要があり、全体との調整を図る事となった。また、「住宅を建てる」ことに先立ち「住宅の長寿命化を図る」ことが、今ある住宅の長寿命化を可能にし、住宅の維持管理・施主のお手入れの提案につながる物として、「維持管理の見える化」のツールとして「お手入れ手帳の解説 DVD」を作成し、事業者・施主双方に提案できる物を構築した。

### 【上記取り組みを実行するための委員会の設置】

上記取り組みを実現するために、当センター内に「改良軸組委員会」「環境委員会」「増改築委員会」「次世代委員会」を設置し検討を行った。

それぞれに、改良軸組委員会：型式認定の取得・環境委員会：環境への配慮（住宅を建てる見える化）・増改築委員会：維持管理（住宅の長寿命化を図る見える化）・次世代委員会：事業実行検討（成果の活用方法の検討と見える化の実証）をテーマとして活動を行った。



【委員会運営図】

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称

木造住宅・建築物等の整備推進に関する技術基盤強化を行う事業

3. 今後の展望及び成果の普及方法

【講習会による本年度事業成果の浸透】

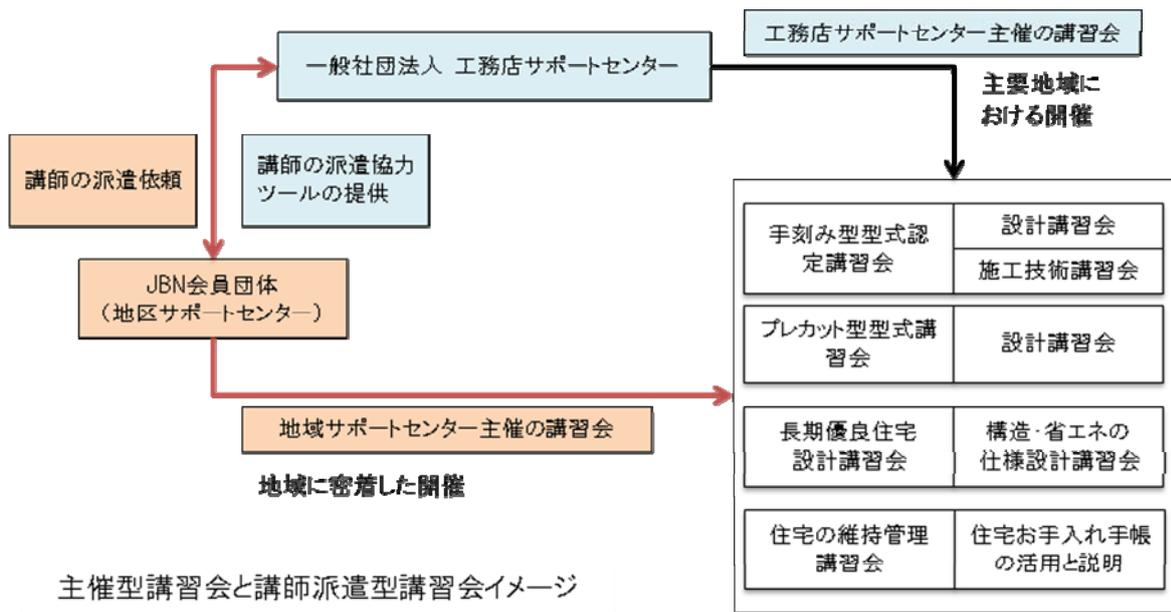
今年度取得した「手刻み型型式認定：JBN・長期ちきゆう住宅国産材モデル型式認定」(IV地域限定)や「建材マニュアル2010年度版(構造編・省エネ編・申請編)」、「お手入れ手帳の解説DVD」を使って会員工務店への浸透を目的にして講習会を行う事を計画している。

「手刻み型型式認定：JBN・長期ちきゆう住宅国産材モデル型式認定」(IV地域限定)を使った講習会では、型式の仕様の理解に向けた設計講習会と施工技術を保有する事を確認する施工技術講習会の2本立ての講習会を計画している。

この他、「建材マニュアル2010年度版(構造編・省エネ編・申請編)」を使った長期優良住宅設計講習会や「お手入れ手帳の解説DVD」を使った維持管理講習会を計画する。

また、要望が多い「プレカット型型式講習会：昨年度取得」も引き続き講習会を行う。

講習会の実施形態として、主用都市(地域をまたいだ)での当センター主催の講習会を5か所程行い、地域サポートセンター(JBN会員団体)からの要望にこたえる講師派遣型の講習会とする。



主催型講習会と講師派遣型講習会イメージ

この他、地域サポートセンターにおける自主開催(当センターにおける承認が必要)が可能となるように、地域の事業担当技術者への研修を行い講師の育成を図る。

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。